

えんちょう先生の わくわくだより NO. 21



H30.1.24

おにが くるかな～

節分とは・・・



季節の変わり目毎に、立春、立夏、立秋、立冬とありますがその前日が節分です。「春夏秋冬」という様に、一年の始まりは春だから、立春の前日の2月3日が節分として残って来たと言われてます。これから始まる新しい一年に不幸や災いが無い様に、悪い物を追い出して明るい春を迎えるために節分への豆まきが室町時代から行なわれてきた様です。

米や豆には邪気を払う力があると言われてます。生の豆を蒔くと芽が出るから豆は炒った豆でないといけません。鬼＝魔であると考えられ、魔から目が（芽）出るという事は大変縁起が悪い事だから、必ず炒って蒔きましょう。豆を蒔いたら、自分の年の数だけ豆を食べると、病気にならず、健康でいられると言われてます。子ども達と一緒に、昔から伝わる「節分の行事」を楽しみましょう。間違えて「鬼は～内」なんて言わないでね。家々から追い出された鬼が喜んで入って来ちゃうよ。

鬼から来た手紙を覗き込んで、「こわいね」「うん、こわいね」と言い合う年少組の二人が、おかしいやらかわいいやら。時折、保育室に入っていると、「園長先生、何でも食べるよ」「もうおりこうになったよ」と節分までは、子ども達のおりこう度もアップしているようです。一年に一度位、こうしたこわい経験をする事も、大人になれば笑い話に変わるいい経験の筈。ちょっとした緊張で「鬼」を待っている子ども達のように。新しい春を迎える節分そして立春。家族の健康と家の幸せを願って、こうした節目節目に、気持ちを新たにしてきた昔から伝わる日本の行事です。2/2日には、ちょっと怖いけど勇気を出して鬼を追い払い、そんな優越感や、すがすがしさも味わいたいと思います



歌 まめまき

- 一. おにはそと
ふくはうち
ばらっぱらっぱらっぱらまめのおと
- 二. おにはそと
ふくはうち
ばらっぱらっぱらっぱらまめのおと
おにはこつそりにげていく
おにはそと
ふくはうち
ばらっぱらっぱらっぱらまめのおと
はやくおはいりふくのかみ



節分には、この馬酔木の木を燃やすと黒く臭い煙を立てて勢いよくパチパチと燃える音がしたり、鱒を焼いて臭い煙を出したり、家の入り口にひいらぎの枝に刺した鱒を飾ったりしますね。昔は家の門に馬を飼っていた家も多かった様でしたが、馬酔木の木だけは家の周りに植えるな！馬が食べて泡を吹いてしまうと言われていました。新しい春を呼ぶ昔からの節分の行事です。皆さんの家も明るい春が訪れます様に。馬酔木や柊は、はるま君のおじいちゃんとバスの運転手の柴田さんにお問い合わせしました。毎年ありがたいです。

向かい来る雪の中を「ゆきになんか負けないぞ～」と声を出しながら走る園長先生を、笑いながらまねをして走りぬける子ども達。寒くても元気いっぱいです。

朝、欠席の報告に来てくれたお当番さんに「今日は、雪の中で元気いっぱい体操が出来ました。今日はすいすい遊ぼうデーだからみんなで楽しく遊びましょう」と各クラスにの子に伝えて貰って始まった遊びの時間。今日は迷う子も少なく、自分で決めた遊びの部屋へすぐに動く子が多かったです。中には前に作った自分に自信があるあるおもちゃ作りの部屋に一目散に走る子、前回は入れなかった遊びの部屋に向かう子、ちょっと余裕の出てきた年長さんが、小さい子に丁寧に教えてくれる姿も見えます。プラバンの部屋は大入り満員。新たに出て来たぴよんぴよんカエルの部屋や剣玉づくりの部屋もあります。ちょっと、根気よさを要する紙コマの部屋は、静かに時が流れていました。「お！ここは穴場だね」なんて声を掛けた事です。手当たり次第に色を塗っていく年少さんの横で、「どんな色にしようかなあ？」と迷う年長さん。こんな所にも、成長の順番が見えてきます。指や手を使って、勘考をしたり、周りの友達のまねをしたり、出来たおもちゃで、一緒に遊んだり・・・こんな中で育つ物って大きいですね。「子ども達がとてもいい顔で遊ぶよ」と、先生達の声です。

うさぎ組さんは、雪の中で先生手作りの凧を高く揚げて貰い、大喜び、いちごひよこ組さんは大型のカルタ遊びを楽しみましたね。



1/19日

年少組の部屋に、マスクをはめて入っていると、「園長先生どうしたの？」と覗き込むH君に「ちょっと、風邪をひいちゃってね」と伝えるや否や、「園長先生、うがいをしなくっちゃあ。そいだし、こうやって手もきれいに洗って・・・」と言われてしまいました。「ほんとだ！しっかり手洗いとうがいをするね」と答えた事ですが、日々、先生達が、子ども達に上手に教えてくれているのだと嬉しく思いながら職員室に向かいました。途中、お腹に黄色の布を巻きつけて、お腹をふくらませている年中組のSちゃん。「園長先生、お腹にあかちゃんがいるんだよ。女の子」と言います。「おだいじに」と通り過ぎた後「こんな子が生まれたよ」と小さなぬいぐるみを抱える姿に、思わず微笑んでしまいました。この日、暖かかった砂場で、ねんちょうさん、今までになく高い砂山を作り、それを覆う緑のシートには「こわさないでね」と張り紙がしてあります。子ども達の遊びを大事にみている先生の気持ちが伝わってきます。